

13:00 開会

<平井知事挨拶>

皆様から、色々なご意見をいただきながら、全国植樹祭の準備を進めているところ。

去る八月には、東京の国土緑化推進機構で鳥取県開催が決定。さらに先日 11 月に入り、国土緑化推進機構から現地調査にお越しただいて、式典会場及び植樹会場を花回廊、さらに連携して行う植樹会場として江府町の奥大山、鏡ヶ成。荒天会場として米子コンベンションセンターとの決定を受けたところ。

いよいよ骨格が固まってきたので、本格的に始動していくということになる。

ぜひとも、皆様の力をいただき、無事成功に結び付けていきたいと考えているところ。

今日、皆様にご審議を賜りたいと思うのが、どういう植樹を行うかということ。これについて、専門的な検討を進めてきた。前回、昭和天皇の時代には、アカマツ等を植樹いただいたが、今回は、アカマツ、スダジイ、クリ等、鳥取県としてふさわしい樹種を選んだので、その選考についてご意見をいただきたい。

その他に、基本構想の策定をしていくのであるが、それに向けたみなさまのご意見を賜りたい。

平成 25 年の開催が決定し、会場も見えてきた。私たち鳥取県は、自然環境のすばらしい所だというのが全国に向けての売りだと思う。そのすばらしい自然環境を県民みんなの力で維持していく、保全をしていく。そして、これに合わせて林業や苗木生産等関連産業の振興も図り、観光や「食のみやこ」としての情報発信も行う。そういう思いや意味を込めて植樹祭を実行に導いていきたいと思う。

成功の鍵を握るのは、いかに多くの方がこの大会に関わってくるかということではないかと思っている。みんなで盛り上げて、みんなで成功に導くこと。これが出来ればその後の植樹はもちろんの事、自然環境の保全や産業振興もみんなでやっというそういう運動が続いていくことになるだろうと思う。それが本当の財産ではないかと思っている。一過性のイベントに終わらないように我々みんながこの植樹祭の成功を誓い合い実現していきたいと思うので、ぜひともみなさまのお力添えを賜りたい。

<事務局>

出席委員の紹介

新たに加わった副会長（南部町長・伯耆町長）及び委員（江府町長）紹介

委員会は原則公開とすること（議事録は HP で公開）についての同意確認

出席者数の確認と総会成立の宣言

会則により平井会長の議長就任を宣言

<平井会長>

植栽樹木検討専門委員会の検討がまとまってきた。報告願う。

<植栽樹木検討専門委員会藤原副会長>

委員長の鳥取大学佐野教授が、海外出張中のため、副委員長の私「鳥取県山林樹苗協同組合理事長の藤原」が、発言させていただく。

資料1に掲げますとおり、我々、委員7名は、会長より委嘱を受け、植栽樹木の検討を行ってきたところであり、7月から8月にかけて、3回の協議を行った。

その詳細を事務局に報告させる。

<事務局>

資料1の説明

<会長>

質問、意見はないか。

意見・質問無し

<会長>

専門的な事であるが、報告事項のようにさせていただきたいと思う。

両方の植樹会場をこの際未来に向かって胸をはれるような森へと生まれ変わらせていきたいと思う。

<会長>

協議事項として、基本構想について、現在の検討状況の報告をしてもらう。

これについては、ご意見等を出していただき、それでおおむねの了解が得られれば、今後パブリックコメントなど県民のみなさまのご意見をいただくようにしていきたいと思う。どうしても色々な問題があれば、継続協議という事もあるかも知れない。基本構想ができれば、この後、具体的な基本計画や実施計画は、新年度以降さらに協議を続けていく。

<鹿田幹事長>

幹事会の構成は10名。9月10日と10月12日の2回に渡って協議。活発な意見が出された。樹種選定についても、いろいろな案が出て、第一回の協議終了後に、植栽樹木検討専門委員会の方にも意見を伺いながら決定したという経緯がある。

事務局が説明する。

<事務局>

資料2の説明

<会長>

質問、ご意見を、お寄せいただければと思う。

<岸田委員（県林研会長）>

問題になっているナラ枯れは、いま東部地区が深刻な被害を受けている。それが徐々に中部・西部と移動していく可能性があると思うがその辺についてはどう考えているのか？

関連行事として、前日に全国林業後継者大会があるが、これの立ち上げの実行委員会というようなものは、どういう風に考えているのか？

<事務局長>

今現在、ナラ枯れは、先端区域が中部の三朝町辺りと大山町に部分的に発生している。全力を挙げて西進を食い止めるよう事業等実施しているところ。

林業後継者大会の実施については、農林総合研究所が担当になる。連絡を取り、別途立ち上げる方向で、検討していきたいと考えている。

<岸田委員>

了解

<知事>

林業後継者大会も全国植樹祭と同時に行われるもの。関係者の方に大変なご尽力もいただかないといけないことなので、速やかに進めるようにしてほしい。

<根本委員（鳥取環境大学教授）>

持続可能な森づくりのイメージ図について（資料2の3ページ）。健全な森の保全・整備の緑色のエリアで、「植林」に対となるのが、天然の力に依存した「萌芽」ということだけになっているというのはアンバランスな感じ。例えば「天然更新」のような言い方で、種から発芽する樹木もあるんだというようなことを考えておいた方が良い。森林資源の循環利用の茶色のエリアでは、全てが最後には燃焼利用に向かっている。色々な物のカスケード的な利用では、最終的に燃焼というのは大事だと思うが、その矢印の最終的な向かう方向というのは、やはり森林資源が循環するという方向でないと、全部燃やしてしまう方向にまとまっているのには違和感を感じる。

カシノナガキクイムシの話も大事だと思うが、最近イノシシ・シカ・クマの出没などいろいろ騒がれている。特に森林の多様性について考えると、シカの食害は、天然林にとっては色々な問題となり、取り組まないといけない課題だと思う。

<事務局>

ご提案いただいた天然更新や、循環利用については修正をさせていただきたい。

シカの害は、シカに限らずイノシシ等も含めた獣害の対策についても記入するようにしていきたいと思う。

<根本委員>

了解

<会長>

今ご指摘の点につきましては修正をした上で、今後まとめていきたい。

もし意見がないようなら、本日の提案をベースとし、今後パブリックコメントを経て、年明け頃、正式に決定をさせていただくということでしょうか？

<出席委員>

意義なし 拍手

<会長>

さき程、根本教授からご指摘があった資料 2 の 3 ページの図の修正と、シカ・イノシシの食害対策などもカシノナガキクイムシと合せて記載をすることで、パブリックコメントにかけていきたい。

<幹事長>

基本構想（案）として、この場で決定いただいたということで良いか。

<知事>

いま、ご了解いただいた。

ただし、今後パブリックコメント等で県民のみなさまの意見を聞いて、あまりにも大きな修正が必要となった時には、再度この総会を開催させていただくこともある。

<幹事長>

了解。微修正等の変更点については、幹事会に一任させていただきたいと思う。よろしく願います。

<会長>

その他事務局から、議論すべきことはないか。

<事務局>

資料 3 の説明

<会長>

ご意見ご質問などこの際お寄せいただければと思う。

<坂本副会長代理（南部町 藤友副町長）>

今日は町長欠席。代理で出席させていただいた。会場が地元の花回廊ということでもあり、私どもも初めての経験になるかと思う。どういったことが想定できるのか、まだ漠然として不安な面もあるが、地元として最大限努力をして立派な植樹祭になるように頑張りたいと思う。

<竹内委員代理（江府町 宮本副町長）>

町長所要で欠席。代わりに出席させていただいた。

江府町の植樹会場は、奥大山高原の鏡ヶ成地域。江府町としても、全力を挙げてこの事業に取り組んでいきたい。今現在、担当職員を配置して、県と協議しつつ、進めている状況。必ず成功するという事で進めていく。

<会長>

地元の方から決意をいただいた。伯耆町の森田副町長（森安副会長代理）も同様な決意だということ。

<秋田委員（森林ボランティア）>

江府町の植樹会場の名称表現、「奥大山」という名前を聞くと、私は米子在住なのだが、スキー場の奥大山をイメージしてしまう。「鏡ヶ成」という表現の方がピンポイントにイメージできる。できたら、「鏡ヶ成」という方が地元はわかりやすい。その点について確認をお願いしたい。

<事務局>

命名については、地元江府町に、どういった名前がふさわしいだろうかという事を伺い、「国立公園奥大山高原」という命名をいただいた。

<竹内委員代理（江府町 宮本副町長）>

江府町の方では、植樹会場のある地区を「奥大山」という名称で、ずっと取り扱っている。「奥大山」という名称を入れていただきたいと事務局にお願いした経過もある。「奥大山」ということでご承認いただけたらと思う。植樹会場は、「鏡ヶ成」の下流部分。国民休暇村も以前は「鏡ヶ成休暇村」と言っていたが、今は「奥大山休暇村」と言っている。

<秋田委員>

了解。

<会長>

わかりやすい表現に関しては、最後まで詰めていきたいと思う。

<小谷委員代理（鳥取県物産協会アンテナショップコーディネーター山本氏）>

「奥大山」という名前を、鳥取県としては、ブランド化して使うという認識で良いか。例えば色々な食の関係も「奥大山」、他の地域特産品も「奥大山」という、ブランド名を使うのか。大体どの辺りを「奥大山」という範囲にして使うのか。

<竹内委員代理（江府町 宮本副町長）>

特産品に関しては「奥大山」というブランドですでに動き出している。「奥大山のケチャップ」や「奥大山の水」等、全てに「奥大山」を付けて売り込んでいる。

「奥大山」の範囲は、他の町村のみなさま方と協議をした訳ではないが、江府町地内は、昭和61年頃から「奥大山」という風なネーミングで統一している。

<森安副会長代理（伯耆町 森田副町長）>

伯耆町は「奥大山」という表現を使ったことがない。

<会長>

別途ブランド化については、色々な観点で議論を進めていこうと思う。

意見がないようなので、今日はこれで議事の方を閉じさせていただきたい。

基本構想は（案）のとおり原則としてご了承いただいた。これからパブリックコメントを行ったり、秋田委員の方からもご指摘がいただいたが、できるだけわかりやすい表記になるよう、ギリギリまで努力をさせていただき、最終的に年明けぐらいにこの実行委員会の名において、公表をさせていただきたいと思う。

最後に、県議会議長で鳥取県緑化推進委員会の理事長の、小谷議長の方からご挨拶いただきたい。

<小谷副会長（県議会 小谷議長）>

私自身も農家出身。里山経験もある。

これから、基本構想（案）のパブリックコメントで県民の意見を求め、いろいろな面で検討しながら、決定していくというのが重要。

私は、準備委員会立ち上げから参加してきた。一番少ない予算で、効率的な、来ていただいた方々が本当に良かったと思うような大会ができることが望ましいと話し合われてきた。いろいろな候補地が浮かび上がったが「花回廊」そして「奥大山」ということになったので、このことを、県民1人残らず周知する。県議会も努力する。みなさま方の力を借りながら県民と一丸となってやろうということが重要だ。

13:54 終了